

2026年度

Peach Kokorozasi School Plus

開講式・基調講演

登壇者：キャノングローバル戦略研究所 上席研究
北海道大学公共政策大学院 客員教授
峯村 健司 氏

講演テーマ：「激動の国際情勢を読み解く
～日本はどう生き残ればよいのか～」



※ アンケートは受講者の回答をそのまま転記しております

2026年度PKS+ 第1回アンケート集計結果

研修日：2026年5月26日(火)

登壇者：キャノングローバル戦略研究所 上席研究 北海道大学公共政策大学院 客員教授 峯村 健司 氏

講演テーマ：「激動の国際情勢を読み解く～日本はどう生き残ればよいのか～」

(1) 峯村 健司氏の講演はいかがでしたか。感想をお聞かせください。

率直に情報収集の幅広さと情報をつなげる力、そのプレゼン力に圧倒され講演を聞き入ってしまい時間があっという間に過ぎて行った。今回の米中首脳会談や、台湾有事について自身が世間一般に知られている情報しか認識できておらず、これまでの背景やそれぞれの国の目線でどう見方ができるのか大変勉強になった。また近隣国の状況が日本や各企業にどのような影響を及ぼす可能性があるのか、聞く前後で危機感が全く異なり、今後のニュースの見え方も変わると断言できる。

峯村先生はジャーナリストのご経歴に基づき、直近の米中関係を分析し、さらに中国の核心的利益とされる台湾統一に向けて、日本の国家および企業戦略が備えるべきことをご提言いただきました。米国政治の動向が統一の時期を左右するため、日本は国家レベルのインテリジェンス強化が必須とされています。企業としては、中国への過度な依存からサプライチェーンを見直し、有事を想定したシミュレーションを実施すべきです。また、客観的なファクトに基づき、組織内の危機意識共有を図ることが重要だということがよく理解できました。

まさに米中首脳会談が行われた約半月後、その状況も踏まえた国際情勢を伺うことができ、大変興味深かった。そして、台湾有事は可能性ではなく必至の事態なのだと理解した。

講演後に「武器輸出」についての「五類型」撤廃についてお伺いしたところ、必然の流れだと仰っていた。日本という国としての存続と担う役割（物理的、精神的双方）、他国との関係性を考えた時に、重なりを見つけることの難しさを思い、もっと議論されるべきではないかと焦燥感が募った。

また、判断を行う際に、ファクトの積み上げが重要であることはもちろん、感情との距離感の難しさを一番感じた。中国の方と話をすると、「台湾有事」は世界が「台湾有事にせざるを得ない」状況にしているという理解になる。先生の講義の中にも習近平になり切るというワードがあったが、なぜ「核心的利益」の上位に台湾併合がくるのか、今までの日本や世界との歴史も十分に理解しなければならない。立場によって正しさも変わる中、何が正しいかではなく、何を指すのか、軸をもって行動を判断し決定していかねばならず、そのためにはファクトをどれだけ集め正しく理解できるかなのだと考えた。

中国情勢に精通されているとご紹介があり講演を楽しみにしておりました。中国の革新的利益の講話では台湾有事にも触れられ、私自身も中国、台湾とお取引がございますので非常に興味深く拝聴させていただきました。

また今月行われた米中首脳会談の話題につきましても峰村講師ならではの解析力に感銘いたしました。1時間30分の講義でしたが充実した内容で満足いたしました。

世界は現在、既存の覇権国であるアメリカと台頭する中国の関係によって大きく方向づけられている。この関係は本来、覇権争いが戦争に発展する危険を伴うが、今回の米中対話では「建設的戦略安定」が示され、衝突回避の動きも見られる。しかしその一方で、台湾問題においてアメリカが中国の立場を一部受け入れれば、中国の影響力拡大とアメリカの後退につながる可能性があり、日本にとって重大な課題となる。

また、中国は経済よりも国家統一や領土を優先する価値観を持っており、日本との根本的な違いが今後の関係に不安をもたらす。こうした環境の中で、日本はこれまでのように環境に順応するだけでなく、安全保障の主体性を強化し、「世界の中の日本」としてどのように行動すべきかを改めて考える必要があると感じた。またイチ企業人としては今後どのようなことが出来るか考えていきたい。

この度はご講演をいただきまして誠にありがとうございました。

峯村講師の講演は、米中関係（対立）や台湾有事といった国際情勢の変化を、ファクトとエビデンスに基づいた分かりやすい説明で非常に勉強となり考えさせられる内容でした。

特に私が従事する建築分野へ置き換えると、これまで地震など自然災害リスクへの備えが主であった「有事」の考え方は国際情勢に於いて、それとは異なる前提条件を持つものである事が新鮮でした。

例えば、台湾海峡の封鎖や物流の寸断、現在の中東情勢等は、資材供給に大きな影響を与え、基本設計段階からのリスク分散回避や代替調達の見点が求められると感じました。また、エネルギー・資源（武力）を巡る国家間の駆け引きも、銅単価上がっている最中、設備計画や技術素材選定において無視できない要素となり得る事も学びました。

さらに、「インテリジェンスの強化」や「シミュレーションの重要性」という話は、建築計画における災害対策・BCP対応と本質的に通じるものがあり、設計組織として社会情勢を読み解きながら、事業継続やリスク耐性を織り込んだ提案を行う必要性を再認識しました。単に建物を設計するだけでなく、企業や地域のレジリエンスを高める役割が、今後一層重要になると学ぶことが出来た講演でした。

また、台湾ドラマ（ZERO DAY）の話で戦争が「始まっている状態」として、心理面や情報空間にまで及んでいるという視点は、都市や建築の在り方にも影響を与える視点と同等と捉えると面白いとも思いました。セキュリティや情報管理、さらには人の行動まで含めた空間設計が求められる可能性も感じました。

本講演を通じて、設計者としての視野を建築単体から社会・環境・国家レベルへと広げ、国際情勢を踏まえたリスクと機会を読み解く力の重要性を強く感じました。今後、国際情勢を意識しながら、幅広い視野での計画立案や付加価値の高い提案につなげていきたいです。

ありがとうございました。

弊社が台湾企業とやり取りをしているため、今回の講義は特に印象深いものとなった。なかでも興味深いと感じた点が3つある。

第一に、現地経験の話を通じて直接聞いたこと。書籍やニュースでは得られない実体験に基づくリアルな情報は説得力が根本的に異なり、かつ通常では聞ける機会が極めて少ない貴重なものであった。

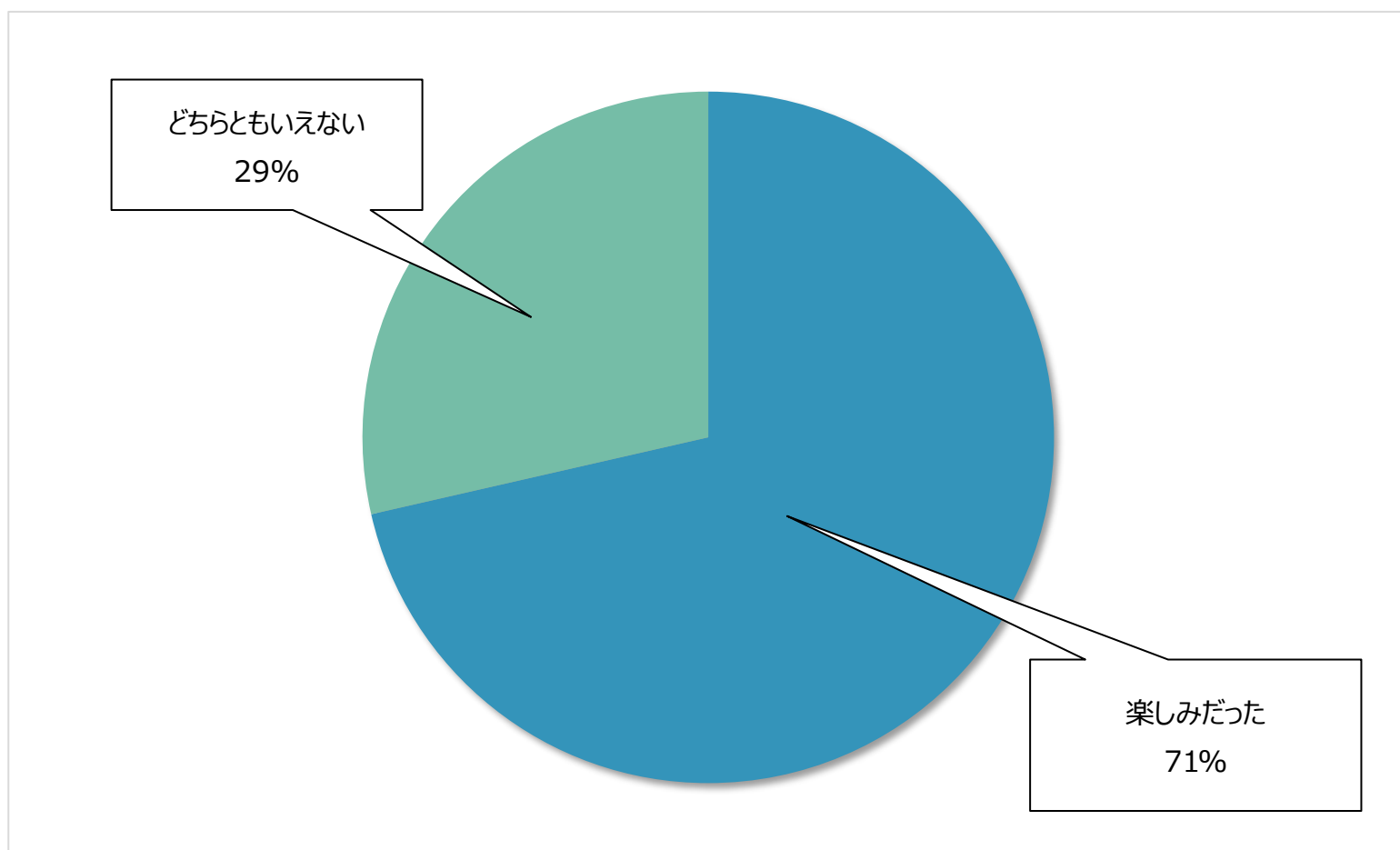
第二に、中国ほどの大国がなぜ台湾にこだわるのか、その構造的な理由を体系的に示してもらえたこと。

第三に、最も印象的だったのが、習近平がなぜ長期にわたって権力を維持し続けられるのかという問いへの答えであった。中国が台湾攻略を最重要課題として位置づけていること自体、これまで十分に認識できていなかった。さらに、習近平主席自身が台湾問題の専門家であるという事実も、今回初めて知ることとなった。

そのうえで、台湾を攻略することが何に繋がるのか、それが米・中・露による大国間の覇権争いへと発展し、世界全体の秩序そのものを揺るがす問題であるという認識にまで、これまでの自分が至れていなかったことを痛感した。その視野の欠落に気づけたことは、今回の講義における最大の収穫である。

これはビジネスの話にとどまらない。日本国内で生活する一人の日本国民として、知っておくべき必須の教養であると強く感じた講義であった。

（2）研修受講前の気持ちを教えてください。【楽しみだった、面倒に思っていた、どちらともいえない】



その理由を100文字以内でご記入ください。

弊社は国内で事業運営をしている会社であり、海外の動きは世間一般の情報でしか触れたことが無く、自分の知見を広げたいと考えていたため。

各業界の最前線で活躍される方々のお話を伺うのも、ほかの業界の方々との交流ができるのも、とても楽しみです。

まさに今話題を権威ある方から聞くことができるため。

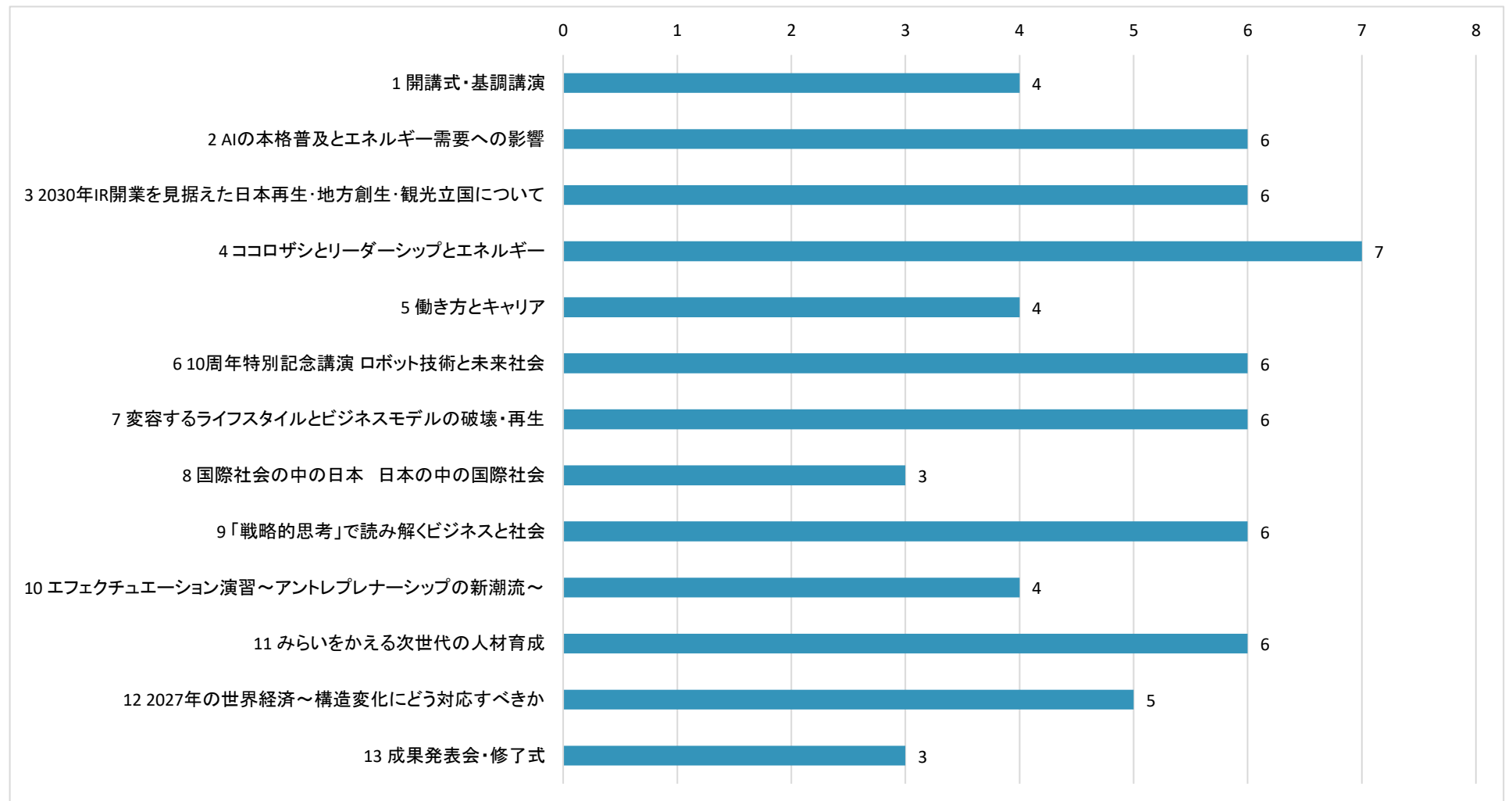
成長の機会を与えていただき感謝する一方、レポート提出などが負荷になると聞いており、業務との両立に少々不安を感じている

社外の方と研修を受講することが初めてだったのに非常に楽しみにしておりました。

管理職、社内経営研修との3つの取り組み両立に不安はあるものの、今まで自身が学んできた知見とは違う視野を得られる可能性にも関心があり、期待と不安が半々の状態であった為。

台湾企業との取引があるため、台湾有事が生じた場合に、サプライチェーン断絶・取引停止という自社の実損にどのように繋がるかを確認できる貴重な機会と考えた。

(3) 興味を持ったカリキュラムはどれですか。(複数回答可)



(4) 1年間の意気込み

自己紹介でも言いましたが、意気込みは2点です。1年間よろしくお願いします！

- ①社内での業務がこれまで多く、研修の受講&社外の方との交流を通じて自身の価値観や知見のアップデートをしたいです。 昨年の先輩のお話を聞いているとレポート等大変かもしれませんが、精いっぱい吸収できるようにいたします
- ②今後のキャリアとして人事系業務を志向しており、社外の人事実態を意見交換させていただきたいです

しっかり研修を受けて、より高い視座で自分の業務と会社の事業と向き合うことができるようになりたく、全力で頑張りたいと思います。

自分の視野拡大と判断軸を養い磨きたいと考えています。
また、皆さんとオンオフ様々な会話をさせていただけますと嬉しいです。
よろしくお願いいたします。

今回の研修を通して自身の成長、今後の自部門の運営に生かしていきたい。

貴重な機会を頂き有難うございます。
一生懸命取り組ませていただきます。
1年間何卒宜しくお願い致します。

これまで建築設計者として、「建築」そのものに注力して業務に取り組んできました。
今回、各講義のテーマに触れる中で、新たな視点や可能性に大きな期待を感じています。
今後はその学びを活かし、志を高く持ちながら新しいことにも積極的にチャレンジしていきたいと考えています。
どうぞよろしくお願いします！

本スクールが掲げる「異業種交流・越境学習」の精神を最大限に活かし、他企業・他業界の方々との積極的な意見交換を通じて、自社業務の枠を超えた多様な視点と発想を吸収してまいります。あわせて、各界の経営者や専門家による講義から得られる知見を、単なるインプットにとどめることなく、自らの課題意識と結びつけ、日々の業務へ着実に還元していく所存です。
本スクールへの参加を通じて「志を高め、視野を広げる」という自己成長を実現するとともに、習得した知識・気づきを職場に持ち帰り、チームおよび組織全体の価値向上に貢献することを最大の目標として掲げます。
1年後には、イノベーションの推進に寄与できる人材として確実に成長した姿をご報告できるよう、主体的かつ真摯に取り組んでまいります。